

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」
アドバイザー委員会 小委員会 (第 1 回)
議事要旨

1. 日時

令和 7 年 4 月 24 日 (木) 16 時 00 分から 18 時 00 分までの間

2. 場所

文部科学省 15 階 科学技術・学術政策局 会議室 1

3. 出席者

(科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」アドバイザー委員会 委員)

有信 睦弘 広島県立鞆啓大学 学長

狩野 光伸 岡山大学副理事・副学長・学術研究院ヘルスシステム統合科学学域 教授

長岡 貞男 経済産業研究所 ファカルティー・フェロー

(外部有識者)

青島 矢一 一橋大学 イノベーション研究センター センター長 教授

岡村 麻子 科学技術・学術政策研究所 主任研究官

小林 傳司 国立研究開発法人 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター センター長

4. 議事概要

(1) ポスト SciREX 事業検討における論点

事務局より、資料 1-1～資料 1-4 を用いて説明があった。

(2) 岡村委員説明

岡村委員より、資料 2 を用いて説明があった。

(3) ディスカッション

委員より以下のような発言があった。

EBPM の総論について

- 米国で EBPM が流行ったのは上院と下院がねじれていたとき。今の日本も似た状態であり、EBPM を行うチャンス。世界中の National academy は、Scientific advice をすることを使命としている。日本はこの機能が弱い、今後重要になっていくだろう。

- 政策研究の評価については、政策の側に寄ると新規性・研究としてのクオリティについて辛口のコメントが来て、研究の側に寄ると政策として使えないというジレンマがある。厚労行政の分野は比較的成果を上げていることから、分野によってアカウンタビリティやエビデンスベースといった考え方が入りやすいところがあるのではないか。
- エビデンスとデータの関係も整備できていないのに、生成 AI が出てきた。本来、データを情報化し、そこから知を得るプロセスを踏むべきところ、生成 AI によって、データから知が直接得られるようになったが、そのようにして得たものがエビデンスと言えるかは注意すべき。

事業全体のスコープについて

- メカニズムの解明に思考が行かなかった。複雑にもかかわらず、早い段階から **discipline** 化の志向が強かった。ボトムアップの結果として研究基盤ができてからコミュニティをまとめるべきだった。
- 科学技術・イノベーション政策の定義については、この方向にかじを切ったときは、科学技術振興政策ではなく、ある種の公共政策としての科学技術政策であるという議論をした。
- SciREX 事業第 2 期でアドバイザリー委員会と運営委員会に分けたが、アドバイザリー委員会でももっと議論があるべきだった。研究結果への助言があった程度で、委員会での議論の結果を他の場所で使えるほどに抽象化できなかった。
- 日本は、**Science, Technology** に、**Innovation** を加えてしまったために複雑になってしまった。多様なステークホルダーを巻き込むことになり、研究成果を社会に普及させる等の成果・価値が求められると、問いの立て方が影響を受けてしまう。

人材育成・ネットワーキングについて

- 人材ネットワークは、政策担当者と研究者をゆるくつなぎ、いい政策が作れるようなニーズとシーズがマッチする仕組みだとよい。ただの交流会ではなく、プログラム化させて多少はファンディングできる仕組みが欲しい。
- 人材育成については、アカデミア・インターフェース・官僚の各登場人物になにをさせるかが重要。人材のネットワークは国内外ともに必要。人材ネットワークを通して、現場を知っている人と、研究者が会えると、研究者が現実社会の問いを知ることができてよい。
- 研究領域同士をつなぐ URA が求められる（それだけの機能を持たせられるのであれば）。

共進化実現プロジェクトについて

- SciREX 事業で行った共進化は、1 つのプロジェクトの中で政策形成と政策のためのサイエンスを同時にやるもので、無理があった。政策の経験を学ぶことでイノベーションのプロセスの理解が進むため、両輪であることは事実だが、多くは実態把握で終わってしまった。
- 研究者側と行政側の時間軸の違いは課題。
- 共進化プロジェクトは理想通りではなかったが、行政・研究者の意識は変わったのではないかな。一方で、個別には研究者に相談できていたが、事業全体で共通の遺産になっていない。

データ基盤整備について

- データ基盤については、NISTEP が企業名辞書や博士人材追跡調査など多くのしっかりしたデータを作った。
- 「政策の科学」の領域を拡張するにはデータ基盤が必要。皆が使えるようなデータ基盤があれば若い研究者が入ってくる。今からでも強化できるのではないか。
- データ基盤整備については、データをきれいにする人、アップデートする人などの番人が必要だが、予算の問題がある。

以上